



令和2年2月21日

## 『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』の中間評価結果について

この度、『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』について、中間評価を実施しましたので、その結果をお知らせします。

### 1. 事業の概要

平成29年度より実施している本プログラムでは、大学間の連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」を養成することを目的に事業を実施しております。

<事業計画期間>

平成29年度～令和3年度（5年間を予定）

### 2. 中間評価について

中間評価は、各選定事業（11件）の進捗状況を検証し、適切な助言を行うことで、今後の事業の実効性を高めること、及び本事業の趣旨や成果を社会に情報提供することを目的としています。

がんプロフェッショナル養成推進委員会（別添1）において中間評価の実施方法を決定し、同委員会の委員が分担して書面評価を行ったうえ、現時点での進捗状況や成果等を確認するとともに、当初目的通りの達成が可能か否かについて、評価結果を別添2のとおり取りまとめました。

<本件に関する問合せ先>

高等教育局医学教育課医学教育係 田村、神藤

電話 03-5253-4111 (3306)

03-6734-3306 (直通)

(別添 1)

## がんプロフェッショナル養成推進委員会委員名簿

あいば 相羽	けいすけ 恵介	戸田中央総合病院腫瘍内科部長
あまの 天野	しんすけ 慎介	一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長
○ いまい 今井	こうぞう 浩三	北海道大学遺伝子病制御研究所客員教授
おおつ 大津	あつし 敦	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院長
こまつ 小松	ひろこ 浩子	慶應義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科教授
さいとう 齋藤	かよこ 加代子	東京女子医科大学臨床ゲノムセンター所長・特任教授
たきがわ 瀧川	ちづこ 千鶴子	KKR札幌医療センター副院長
てらだ 寺田	ともひろ 智祐	滋賀医科大学医学部附属病院教授・薬剤部長
なかがわ 中川	けいち 恵一	東京大学大学院医学系研究科准教授
にしお 西尾	かずと 和人	近畿大学医学部教授
はとり 羽鳥	ゆたか 裕	公益社団法人日本医師会常任理事
はりがえ 張替	ひでお 秀郎	東北大学大学院医学系研究科血液免疫病学分野教授
ほり 堀	ひろき 浩樹	三重大学大学院医学系研究科教授
ほんだ 本田	まゆみ 麻由美	読売新聞東京本社編集局生活部

計 14 名 (○ : 委員長)

五十音順 (敬称略)

「がんプロフェッショナル養成推進委員会」所見

令和2年2月21日

## 1. 事業の概要

がんは、我が国の死因第一位の疾患であり、国民の生命と健康にとって重大な問題となっている現状から、国民に対する最適で安心・安全ながん医療を提供するために、がん専門医療人材の養成が期待されている。

特に、近年、新たなニーズとして、がんゲノム医療の推進、希少がんや小児がんへの対応、AYA (Adolescent and Young Adult) 世代や高齢者等のライフステージに応じたがん対策が求められており、これらの新たなニーズに対応するため、がん医療に携わる専門的な知識・技術を有する医師やその他医療従事者を養成することが必要である。

本事業は、がんに係る多様な新ニーズに対応するための優れたがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）を養成することを目的として、平成29年度より、複数の大学との連携による「がん医療人材養成拠点」を整備して、各大学の特色を活かした体系的な教育プログラムを構築する優れた取組を支援している。

## 2. 中間評価で確認できた成果

本委員会では、今年度3年目を迎えた本事業における取組の進捗状況や成果を検証し、評価結果を各大学にフィードバックすることにより、今後の事業の推進に役立てることを目的として中間評価を行った。

教育プログラム・コースの構築状況については、令和元年10月末時点で、本事業の実施により新たに開設された378の教育プログラム・コースにおいて、医師を始めとする医療従事者や大学院生など、それぞれの能力に応じた多彩な教育プログラム・コースが展開され、受講生の数は、正規課程とインテンシブコースの合計で17,000人を超えている。

また、多くの拠点において、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた人材を養成する体系的な教育プログラムを展開しており、当初の目標を上回る教育プログラム・コースの開設や学生の参加を得られ、事業責任者のリーダーシップの下、連携大学が一体となって事業に取り組んでいる。

特に、全国がんプロ e-learning クラウド等を活用した教材コンテンツの拡充による教育コースの充実と新たな受講者の獲得に努めていることは大きな成果として評価できる。

なお、各取組により、養成人材の分野や事業計画、連携大学の有無、地域の実情等がそれぞれ異なることから、今回の中間評価は各取組の内容を比較して優劣をつけるものではなく、各取組が掲げた当初計画の進捗状況や本事業の目標が達成できるか否かを評価したものであることに御留意いただきたい。

### 3. 現状の課題

一方で、取組によっては例えば下記①～③のような課題もある。

- ①プログラム・コースによって、受講者数が目標に達していない大学も見られ、有効な改善策が講じられていない。
- ②連携大学毎の取組内容に差があるなど、拠点校による連携大学へのサポートや有機的な連携が十分でない。
- ③本事業の成果を他大学や社会に対して広く普及・促進させるための広報戦略や分かりやすい情報発信が十分でない。

### 4. 今後の期待

本事業の趣旨に沿った優れた人材を多数輩出するため、今後、各大学には、今回の中間評価結果における本委員会のコメントや、以下に記載の事項等を踏まえ、取組の一層の推進を期待する。

- ①修了者の多様なキャリアパスを見据えた教育プログラム・コースを構築し、推進すること。
- ②他大学への普及・促進を見据えた、新たな知見を含む教材・マニュアル等の充実を図ること。
- ③ゲノム医療、小児がん・希少がん、ライフステージに応じたがん対策の3つの分野ごとの養成人数や取組成果などを適切に把握するとともに、がん診療連携拠点病院等と連携するなど、社会のニーズにより応えられるよう改善していくこと。
- ④広報戦略として、全国の拠点が一体となったフォーラム等の開催や、がん患者からの声を吸い上げ、本事業の取組の成果とともに社会や地域に広く情報発信していくこと。
- ⑤補助期間終了後の事業の継続のための具体的かつ実現可能性の高い計画を策定し、推進すること。

## 取組概要及び中間評価結果

### <総合評価結果>

評価	総合評価基準	件数
S	順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成し、当初目標を上回る効果・成果が期待できると判断される。	1件
A	順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。	6件
B	おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。	4件
C	改善を要する事項があり、このままでは目的を達成することは難しいと思われるので、留意事項を考慮し、当初計画の大幅な変更が必要と判断される。	0件
D	特に重大な課題があり、今後の努力を持っても当初目的の達成は困難と思われるので、補助事業を中止することが必要と判断される。	0件

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	1
申請担当大学名 (連携大学名)	札幌医科大学 (北海道大学、旭川医科大学、北海道医療大学)
事業名	人と医を紡ぐ北海道がん医療人養成プラン
事業推進責任者	医学研究科長 三浦 哲嗣
<b>取組概要</b>	
<p>近年のがん診療ではゲノム情報の重要性が高まり、これまで十分ではなかった希少がんや小児・AYA世代のがんに対する対応が求められるなど、新時代の医療、患者の視点に立った多様なニーズに応える医療の必要性が高まっており、こうしたがん医療を担う人材の養成が急務である。また広大な北海道においては、患者がそれぞれの地域での生活を営みつつ質の高いがん医療を受けることを可能にするため、医療の機能集約と均てん化の両立が求められる。</p> <p>本プログラムでは北海道内の医療系大学が先進的に進めている遺伝医療、がんゲノム医療、遠隔医療、多職種連携診療の英知を結集し、道内の中核医療機関とも連携して、大学院生はもとより地域の医療機関で研修する医師やがん診療にかかわる医療従事者に高度な専門教育を提供し、地域横断的、専門職横断的、臓器(がん種)横断的な包括的がん医療を担う人材および次世代のがんゲノム医療を担う研究者を養成する。</p>	
<b>中間評価結果</b>	
(総合評価) S	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を十分に達成し、当初目標を上回る効果・成果が期待できると判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p><b>【優れた点】</b></p> <p>○北海道内の4大学が、遺伝医療やがんゲノム医療等、それぞれの強みを生かして有機的に連携しながら責任体制を構築し、ゲノム医療に関して多職種での人材育成を進めている。</p> <p>○多数の市民公開講座の開催に際し、島嶼・山間部などの医療過疎地においても参加できるよう、ネットでのライブ配信も実施している。</p> <p>○教育コース受講者の動向や、市民公開講座・地域セミナー開催地域の分布など、北海道におけるがん医療の現状を可視化する「北海道がんプロマップ」を4大学共同で作成している。</p> <p><b>【改善点】</b></p> <p>●4大学の共同事業運営協議会である「がん専門医療人材養成ボード」においては、意見交換のみならず、情報・経験・アウトカムの共有による大学間の役割の補完や、自己点検評価を踏まえた事業改善の実質化が望まれる。</p> <p>●Web、SNSなどで不特定の視聴者をカバーしつつ、がん専門医療人を目指す医療スタッフへ直接届く情報発信の工夫が望まれる。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	2
申請担当大学名	東北大学
(連携大学名)	(山形大学、福島県立医科大学、新潟大学)
事業名	東北次世代がんプロ養成プラン
事業推進責任者	加齢医学研究所教授 石岡 千加史
取組概要	
<p>本プランの目的は、わが国のがん医療の課題解決のため、最新のがん医療に必要な学識・技能や国際レベルの臨床研究を推進する能力を育み、大学、行政、職能団体、がん拠点病院や診療所、患者会や学会が連携しがんゲノム医療・個別化医療、希少がん・難治がん、小児から高齢者のライフステージ毎の多様ながんの医療ニーズに応えるがん専門医療人を養成することである。その実現のため、連携4大学が大学院に新たに55教育コースを設置し、東北メディカルメガバンク、小児がん拠点病院、個別化医療センター、重粒子線がん治療センター、医療・産業TRセンター、臨床研究推進センター、東北家族性腫瘍研究会など、ゲノム医療、希少がんや小児がん対策に重要かつこの地域がもつ国内外で有数の医療・医学インフラを活用した広域かつ高度先進的教育プログラムにより、先進的がん専門医療人を養成して我が国のがん対策の目標達成や医療イノベーションに寄与する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) A	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】</p> <p>○参加大学の枠組みを超えて、東北6県+新潟県のがん診療関係者の連携体制が構築され、地域医療の活性化や教育システムの開発につながっている。</p> <p>○4大学間のWebカンファレンスや学外履修者が利用可能なインターネット講義の導入により、人材育成のための合同会議や講義の効率的な実施を可能とし、東北地方の課題である遠隔間での連携を改善している。</p> <p>○がん医療に関わるDVD教材を全国のがん診療連携拠点病院に送付するなど、東北地方全域に加え、全国的に成果を普及している。</p> <p>【改善点】</p> <p>●各教育コース参加者への教育効果を短期的かつ中長期的に評価する方法の検討が望まれる。</p> <p>●医療機関だけでなく、地域の専門家並びに市民へのわかりやすい情報提供を行うべきであり、特に連携大学における社会への発信の強化が望まれる。</p> <p>●遺伝性腫瘍やAYA・小児がんなどの諸課題に対応する多職種連携について、大学間での協力体制の強化も期待される。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	3
申請担当大学名 (連携大学名)	筑波大学  (千葉大学、群馬大学、日本医科大学、獨協医科大学、埼玉医科大学、茨城県立医療大学、群馬県立県民健康科学大学、東京慈恵会医科大学、上智大学、星薬科大学、昭和大学、お茶の水女子大学)
事業名	関東がん専門医療人養成拠点
事業推進責任者	医学医療系消化器外科教授 小田 竜也
取組概要	
<p>A) 連携8大学による“関東AYA希少がんセンターネットワーク”を教育拠点として整備し、がんゲノム医療、がんライフ・QOL医療の教育実践の場とする。B) 連携大学内にあるゲノム、オミックス研究施設と連携し、深い学際的教養と幅広い研究的視野を持って、新たな医療価値を創造するがん専門医療人を養成する。A、B) 教育リソースが少ないこれらの課題分野に対して、全国がんプロ8拠点と連携したEクラウド教育体制を新たに構築し、大学院生教育を行う。大学や地域の医療職へのFD、市民教育にもこの先進的なIT環境を積極的に活用する。C) 諸外国の方が進んでいる制度や活動(AYAがんセンター、Team Oncology等)については、多職種、多大学から成るチームで現地視察を行い、その長所・短所を拠点内の活動に反映させる。他方、東アジア、中東などでは現地での需要を掘り起こし、日本のがん医療のグローバル展開の礎とする。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) A	
順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等	
<p>【優れた点】</p> <p>○拠点の特徴としてのe-learningはブラッシュアップされつつあり、本事業の推進に貢献している。</p> <p>○年1回の全国がんプロe-learningクラウド会議を開催し、全国がんプロ8拠点が連携して、各大学のみでは充足させることが困難な講義等を相互に補完できるような教育体制整備を行っている。</p> <p>【改善点】</p> <p>●各大学にゲノム医療、小児・AYA・希少がん、がんライフについてコースを立てているが、拠点全体としての取組やネットワーク体制について明示すべき。</p> <p>●e-learningのコンテンツ内容の質的担保と標準化、また、e-learning以外の取組のさらなる実践が望まれる。</p> <p>●修了者のキャリアパス形成に関して、具体的な取組を示すべき。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	4
申請担当大学名	東京大学
(連携大学名)	(横浜市立大学、東邦大学、自治医科大学、北里大学、首都大学東京)
事業名	がん最適化医療を実現する医療人育成
事業推進責任者	医学系研究科長 齊藤 延人
取組概要	
<p>近年のめざましい医学の進歩は、がん医療に新たな革新技術をもたらしているが、その一方で、それらが医療現場で個々の多様な状況に応じて適切に実践されているとは言い難く、このような問題に対して社会からの批判も増大している。このようながん医療の課題に解決するために、本事業では、人材不足が顕在化しつつあるゲノム医療、希少がんおよび小児がん医療、ライフステージ対応がん対策については、これらの各領域で既に先駆的な取り組みを行っている6大学が、その基盤を利用して、全国のモデルを形成すべく人材育成を拡大する。それとともに、これら以外の新たなアンメットニーズにも対応することができる人材も育成する。これらの取組においては、多職種連携によるチーム医療を基本とするとともに、医療全体を俯瞰できる能力の涵養も重視し、多様かつ複雑な専門医療が一人一人の個々の状況に応じて集約化されるがん医療の最適化が実現されることを目指す。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) A	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】</p> <p>○目標に沿った受講者受入を達成するとともに、学位論文の質の向上を目的として事業参加大学の学生が参加できる学生研究発表会を毎年開催し、研究能力の向上を図っている。</p> <p>○遠隔会議システムを用いた大学連携による合同セミナーをアグレッシブに開催し、その内容が全国のがんプロ学生にも有用と考えられ場合にはe-learningクラウドに収載して全国に配信、普及している。</p> <p>【改善点】</p> <p>●開発したがんゲノムパネルの臨床試験の実施と人材育成に関する他大学への成果普及との関係性を明確に示すべきである。</p> <p>●がんゲノム医療のエキスパートパネルには連携6大学のうち3大学のみ参加であり、その他大学との連携を深めて、レベルの均てん化を図る必要がある。</p> <p>●本事業で養成された人材に対する教育効果を直接的に評価するための適切な評価指標の導入が望まれる。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	5
申請担当大学名	東京医科歯科大学
(連携大学名)	(秋田大学、慶應義塾大学、国際医療福祉大学、聖マリアンナ医科大学、東京医科大学、東京薬科大学、弘前大学)
事業名	未来がん医療プロフェッショナル養成プラン
事業推進責任者	医歯学総合研究科研究科長 北川 昌伸
取組概要	
<p>これまでに、2期にわたるがん対策推進基本計画と併走する形で、がんプロフェッショナル養成プラン、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランが実施された。特に後者によって多くの医学部に化学療法、緩和ケア、地域医療などの講座が新設され、従来の診療科を横断する人材養成体制の構築と全国的ながん教育の均霑化が整備されてきた。本プランは、これまでに養成した人材およびシステムを最大限に活用し、さらに新たな枠組みによって未来志向のがん医療者を養成することを目的に計画したものである。本プランの特徴は、「連携」と「実践」である。すなわち、各々の大学が各自のネットワークを利用し、さらに構成8大学間での密な連携を構築することによって、がんゲノム、小児がん、希少がん、多様なライフステージへの対応などについてのコースワークに加えて、実践の場所を大学間で補完し実効性を伴う人材育成が可能となるように設計している。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) B	
<p>おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】 ○自己評価について、年2回開催している運営協議会で毎回各連携校が実績を報告し、お互いに改善点、反省点など討議しており、次の運営協議会までに対応、改善策を提示している。</p> <p>【改善点】 ●各大学が個別に事業を進めている印象が強く、より、がんプロチームで行っている利点を教員・学生ともに享受できる体制を整備すべきである。また、役割が十分に見えない連携校もあり、偏りなく各校が役割を担う体制が望まれる。 ●修了者のキャリアパス形成に対してどのような支援を行っているか具体的に示すべきである。 ●外部評価は、医療専門職だけでなく、患者会、メディアなどの第三者や、医師会や薬剤師会などの職能団体をメンバーに入れるなど、多様な意見を組み入れることのできる体制が望ましい。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	6
申請担当大学名 (連携大学名)	金沢大学 (信州大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学)
事業名	超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成
事業推進責任者	がん進展制御研究所腫瘍内科教授 矢野 聖二
<b>取組概要</b>	
<p>本事業は、県の枠を超えた北信地域での戦略的がん医療人育成システム構築を目指す。6大学の強みを生かした最先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の枠を超えて学習できる、共通科目や単位互換を導入した相互補完的教育コース(本科10、インテンプ9)を新設する。2期がんプロで構築したTV会議システムを発展させた北信オンコロジーセミナー等を定期開催し、遠隔教育により多施設・多職種連携を推進する。さらに免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例の北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文発表に使用して専攻生や教員の意欲を高めると共に、地域がん対策に活用し成果を社会に還元する。これらの活動により、患者中心のチーム医療を行う超少子高齢化地域で活躍できる先進的がん医療人を輩出し、将来の日本の超少子高齢化社会におけるがん医療人材育成モデルを確立する。</p>	
<b>中間評価結果</b>	
(総合評価) B	
<p>おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】 ○北信がんプロ独自のe-learning教材の活用や、TV会議システムによる多施設・多職種連携の双方向性演習の実施など、多くの学生や医療従事者の学習に貢献している。</p> <p>【改善点】 ●6大学連携について、単に役割分担を行うのではなく、各大学の特徴を生かした有機的な連携について具体的な検討を行う必要がある。 ●自己点検・評価体制として、連携大学間で定期的に事業の進行状態を確認し、相互評価する体制を構築すべきである。 ●他大学との共同セミナーやシンポジウムのみならず、他大学等に本事業を普及・促進させる具体的な取り組みが必要である。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	7
申請担当大学名 (連携大学名)	京都大学 (三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学)
事業名	高度がん医療を先導するがん医療人養成
事業推進責任者	教授 武藤 学
<b>取組概要</b>	
<p>本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、プレシジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指す。ゲノム医療では、ゲノム情報を理解し治療に結びつける医療人の育成に加え、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行う。希少がん、小児がんにおいては、病態解明および新規医療開発を担う医療人を育成する。現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきた。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材に加え、がんの診断時から緩和医療を担える人材を育成し、幅広い領域の医療人育成とがん医療の発展に貢献する。</p>	
<b>中間評価結果</b>	
(総合評価) A	
順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。	
(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等	
<p><b>【優れた点】</b></p> <p>○連携5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者の下に、連携大学担当コーディネーター、コースコーディネーターを配置するなど、連携体制を整えている。</p> <p>○連携大学間での取組事業として、毎年度履修生を選抜し、合同研修に参加させることで、5大学の学生間において共通意識を向上させ、多職種でのチームスタッフとして協働する意識付けをしている。</p> <p>○受講料徴収等による自己資金確保、民間企業との共同研究、自治体との共同事業、寄附講座の活用により、財源を確保し継続させようとしている。</p>	
<p><b>【改善点】</b></p> <p>●がん患者や家族の視点を教育内容等に反映させることについて、京都大学の成果を共有するだけでなく、各連携大学も積極的に取り組むべきである</p> <p>●養成実績がないコースが複数あり、カリキュラムや広報等の検討を行う必要がある。</p> <p>●外部評価委員の数が3名と少なく、医師だけで構成されているため、医師以外のメディカルスタッフや、患者、メディア等の民間委員も加え、より広い視野から外部評価を受けることが必要である。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	8
申請担当大学名	大阪大学
(連携大学名)	(京都府立医科大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学、和歌山県立医科大学、大阪薬科大学、神戸薬科大学)
事業名	ゲノム世代高度がん専門医療人の養成
事業推進責任者	教授 小泉 雅彦
取 組 概 要	
<p>本事業は関西7大学の連携により、ゲノム医療に基づくがんの診断・治療および緩和ケア・日常生活ケアに関わる人材養成、小児がん・希少がんの専門医療人を教育し、AYA世代～高齢者に至るライフステージのそれぞれの患者ニーズを理解し、患者の視点に立脚して、がん医療の各局面に必要な人材養成を行う。そして、これからの「ゲノム世代がん医療」を担い、多職種間の連携で、治療成績の向上と患者QOLの改善を実現することにより、関西地区の高いがん死亡率の現状からの脱却を図るとともに、個々の患者ニーズに応じて、患者満足度を上げる。また、専門家でなくてもゲノム情報を理解し、小児がん・希少がんの知識も保有する医療人の養成、患者のライフステージに応じた生活の悩みをサポートできる人材も育てることにより、がん医療の均てん化を推進する。</p>	
中 間 評 価 結 果	
(総合評価) A	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】</p> <p>○プログラムが豊富に作成され、幅広い職種等での教育コースが設置されている。特に、ゲノム医療中核拠点病院の指定と合わせ、新たなゲノム医療分野の教育体制の整備も進んでいる。</p> <p>○京都大学拠点、近畿大学拠点との近畿地区3拠点は継続した合同フォーラムを共催しており、他大学の教員、院生の参加を得て情報交換を行うなど、成果の波及に取り組んでいる。</p> <p>【改善点】</p> <p>●がん専門薬剤師養成コースに受入がないなど、開講コースの中で目標人数に達していないあるいは集まっていないコースについて、今後改善すべきである。</p> <p>●連携大学間の情報共有や協力体制を充実しつつ、責任体制や役割をより明確化する必要がある。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	9
申請担当大学名	近畿大学
(連携大学名)	(大阪市立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫医科大学、大阪府立大学、神戸市看護大学)
事業名	7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン
事業推進責任者	医学部内科学腫瘍内科部門教授 中川 和彦
<b>取組概要</b>	
<p>本プランの目的は、阪神地区の国公立7大学9学部の医学、看護学、薬学、理工学系大学院研究科が相互連携し、多様化する新ニーズに対応した個別化医療を実践できるがん専門医療人を養成することである。目的達成のために、3つのタスクフォース(TF)を立ち上げ、ゲノム医療、希少がん及び小児がん、ライフステージに応じて生じる様々な課題等に対して取り組む。「TF 1 ゲノム・サイエンス」では、ゲノム医療を構築し連携大学間及び産学官共同研究を推進する。「TF 2 教育イノベーション」では、個別化医療を実現するための革新的な教育プログラムの開発を促進する。「TF 3 マルチパートナーシップ・アライアンス」では、地域医療機関、自治体・公的機関、がんサバイバーを含む患者会、NPO法人等との連携・支援体制を強化する。各タスクフォースが有機的に連携することによって、患者中心の個別化医療を実践できるがん専門医療人が養成される。</p>	
<b>中間評価結果</b>	
(総合評価) B	
<p>おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】</p> <p>○医学・薬学・看護系大学院の教育プログラムの融合により、独創的な遺伝カウンセラー養成プログラムを構築し、がん精通した遺伝カウンセラーを養成している。</p> <p>○遺伝子解析結果を治療薬選択に反映する上で重要な役割を担う多職種専門委員会(エキスパートパネル)での検討を通じて、診断を的確かつ包括的に行うことができる分子病理医の教育体制を構築している。</p> <p>【改善点】</p> <p>●各教育プログラムの受入目標人数に届いていないコースも散見されており、特に医師の受講者数が達していないプログラムが多く、学生へのPRなどを通してより注力いただきたい。</p> <p>●連携大学間での実績に差があるように見受けられるため、施設間の教育活動の差を埋める努力が必要である。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	10
申請担当大学名	岡山大学
(連携大学名)	(愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知県立大学、徳島大学、徳島文理大学、広島大学、松山大学、山口大学)
事業名	全人的医療を行う高度がん専門医療人養成
事業推進責任者	大学院医歯薬学総合研究科教授 藤原 俊義
<b>取組概要</b>	
<p>本事業は、高度ながん治療の専門性を有すると同時に全人的医療を高度なレベルで実践できる人材を育成する中国・四国地方全域の大学院・がん診療拠点病院が連携した教育プログラムである。各施設の特徴と患者会との連携を生かしゲノム医療・高齢者・小児・希少がん・全人的医療の領域において高度なレベルで標準化された共通コアおよびeラーニングによる域内統一カリキュラムを設計し、評価修正を行い、大学間連携と拠点間連携による大学、分野、職種を越えた専門職教育を行う。英語教育と海外先進施設との連携により国際的に活躍する人材の養成とFD研修、地域医療機関との連携により在宅・緩和・高齢者がん医療に貢献する専門医療人の養成を行い、CNSの高齢者・在宅医療リカレント教育と在宅看護・口腔ケア・栄養専門職の人材育成を行う。地域のがん啓発、教育を行ないソーシャルキャピタルを形成するとともにミャンマー、台湾での人材育成にも貢献する。</p>	
<b>中間評価結果</b>	
(総合評価) A	
<p>順調に進捗しており、現行の努力を継続することによって当初目的を達成することが可能と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p><b>【優れた点】</b></p> <p>○在宅訪問看護研修セミナー、アジア地域とのFD研修交流など特徴的な取り組みに確実な成果がみとめられる。</p> <p>○各々の大学が専門性の高い講義をeラーニングシステムとして配信しており、11大学の大学院生が視聴でき、かつ単位認定にも用いることができるようになっており連携体制が確立されている。</p> <p>○地域内各所で多数回の市民公開講座を実施し、小中高校生へのがん教育にも積極的である。</p> <p><b>【改善点】</b></p> <p>●代表校において、医師、放射線技師等に比較して、薬剤師、看護師などの受け入れ員数が少ないところがあり、一層の受入目標人数達成に向けた取組みの強化が望まれる。</p> <p>●連携大学・病院以外への具体的な成果の普及・展開という点が読み取れず、中四国地域のがん診療レベルの向上に向け、他大学やがん診療施設への波及効果を期待する。</p> <p>●インテンシブコースの履修効果の測定について、具体的な提示を期待する。</p>	

「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン」の  
取組概要及び中間評価結果

整理番号	11
申請担当大学名 (連携大学名)	九州大学 (福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学)
事業名	新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン
事業推進責任者	大学院医学研究院長 北園 孝成
取組概要	
<p>本プランはこれまでの10年に及ぶ九州内の医療系大学との継続的ながん教育連携を基盤とし、九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座が10の大学院・関連医療機関等と密接に連携し九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。また長崎大学の臨床腫瘍学分野、鹿児島大学の臨床腫瘍学講座が九州内連携の要となり、特にライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。当該講座には専門の教員を配置し、各大学病院内の小児がん医療部門、希少がん部門、ゲノム医療関連部門等との強力な連携に基づく実地教育を行う。対面講義・研修等に加え遠隔通信等も利用し広域にわたる大学連携を機能的に実現させ、新ニーズに対応した多職種連携教育の構築・情報発信を行う。またゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。</p>	
中間評価結果	
(総合評価) B	
<p>おおむね順調に進捗しているが、当初目的を達成するためには、留意事項を考慮し、一層の努力が必要と判断される。</p>	
<p>(コメント) ○:優れた点等 ●:改善点等</p> <p>【優れた点】 ○海外医学機関への訪問研修などを通じ、がんゲノム医療、ゲノム解析等について知識を習得するなど、先進的な取組を行っている。</p> <p>【改善点】 ●連携大学間で活動のレベルに差が見られるため、10大学からなる九州における大学間連携をより密にして、取組の均てん化を図るべき。また、連携校が多い割には全体の活動量がやや少ない印象であり、もっと多岐にかつ深化して取り組むべき。 ●受講生の確保が出来ていないコースが複数あり、改善が必要である。</p>	